



安  
ら  
此  
  
負  
外



文 研  
911.33  
Y31a  
3



文学研究科  
 中村俊定  
 No. 66

0: 559

早稲田大学大学院  
 文学研究科図書

早稲田大学  
 文学研究科  
 図書

曠野集 負外

曠

中  
 金

誰より母をたもつて愛せし地  
 市中にありて朝の光にさす  
 とるが 系東四明の麓より  
 きて花のさつらハこ池をふか  
 らしめて 佐川田を流るのうの山  
 あいさくともいふるあまを  
 こくんとす

冬晴し 厚とさくさつり  
 世夕尾陽の野ありて  
 芭蕉翁の傳へし

笑しにらいつは回星、八指をう  
美は世の良辰感よあむうーあま  
とさるる人の中は虎のお倍と  
とさるる人の中は虎のお倍と  
独色を夜夢しとさるる海の  
夜夢しとさるる海の  
様をみては實に下るる  
あまのさるるも實の字老  
松乃さるるあまのさるる  
うさるるひて

素堂

麦をうさるるあまのさるる

この文入るるさるる  
さるるさるるさるる  
あまのさるる

さるるさるるさるるさるる

野水

鏡の鏡とさるるさるる

荷今

このさるるさるるさるる

越人

門跡石月結園のさるる

水

風の月利を初秋乃さるる

今

武士乃鷹うつらふ  
志をかりこしつて  
袋らるや軽とて出  
はふと降らぬと  
去之と松の直を  
千句をさし  
地さぬと  
あてともな  
水 人 今 水 人 今 水 人

きぬの力を  
秋夜たを  
あまやら西と東  
さあふ  
あの日  
孫子  
あつ  
旅  
水 人 今 水 人 今 水 人

柏木の脚元の比のつくしと

さくちのつきのあまのつる

月乃影のつる合のつりとお獲

秋のなほつる草星乃酒桶

まのつるつるつるつるつる

つるつるつるつるつるつる

かつるつるつるつるつるつる

火箸のつるつるつるつるつる

水

今

人

水

今

人

水

今

つるつるつるつるつるつる

あつるつるつるつるつるつる

あつるつるつるつるつるつる

あつるつるつるつるつるつる

あつるつるつるつるつるつる

大根のつるつるつるつるつる

人

水

今

人

水

今

遠沙也浪江志史とす湖と事

無洞

何とれ舟なる湖のまじり

荷兮

のさきーやあがり泊ふ何と解て

昌碧

百足乃懼る葉とさりくあ糸

野水

夕月の雲は白信をうらな

舟泉

あ寒の蓑を褌とけりや

釣雪

秋乃をまよふことよきし地なりそや 筆

一駄をりて是も古錦一 龜洞

その色もよきものなるに祢麻 荷兮

よす終此よりたぬよと年一栄 昌碧

いづれもあつてあつたに藏蓮 釣雪

湯殿まいたのともむじらぬ一也 舟泉

涼しやと感もてくる川の響 野水

いづれもあつてあつたに 荷兮

秋風よ一女車の髪にねとこ 飛洞

神そあつたも、湯殿より法輪 釣雪

時よよとあつたも、地元の 昌碧

いづれもあつてあつたに 野水

日乃いてやれよら何も人腹より 舟泉

んやあけりよとあつたも、あつた 龜洞

向きて寝ゆるはあつたのよあつて 荷兮

垢離かく人のよあつたのよあつた 昌碧

龍所よこし一魚のか猶多え

釣雪

舟のふらふらおりのあそび

舟泉

野のあそびあそびあそびあそび

野水

荷のあそびあそびあそびあそび

荷今

魚のあそびあそびあそびあそび

魚洞

松のあそびあそびあそびあそび

釣雪

松のあそびあそびあそびあそび

昌碧

野のあそびあそびあそびあそび

野水

夏の日やあそびあそびあそびあそび

身泉

あそびあそびあそびあそびあそび

亀泥

夏の日やあそびあそびあそびあそび

菴雪

桶のあそびあそびあそびあそび

昌碧

人あそびあそびあそびあそびあそび

釣雪

つらつらあそびあそびあそびあそび

野水



夏一よ銀くさなり夏のぬ

柳のうらみかきさなり乃卿

卯カラ

又もあはれおもしろくうらみ

きよいさよこゆる月影

秋のうらみもなき極み

うらみもなき勝相模

舟泉

松芳

み文

荷今

松芳

舟泉

ふた赤木の拾ひむとこ 荷今

ふかかしく 砂の中み木へえ 冬文

火鼠の皮みちあやむるふくしく 舟泉

涙え残しやうら笑はつ 松芳

るこく 梨嶋まつしてそるふ 冬文

瀬の半く膳もちりてふい 荷今

米ら牛な順礼もをすけ 松芳

とまろ双魚の結をえよる 舟泉

かろゆりともうら志をいふ心の自 荷今

月のたほろやぶる多井りて 冬文

灯にまばねひつてまの風 舟泉

珠をるこのまて脇息のえ 松芳

陰辰と入齒くまの志はる 冬文

十日のこくみわしとまろし 荷今

山星の秋まろしと生 松芳

本持かろくくるやとさ 舟泉

さか〜とあつたをふる川に歌 荷今

馬乃ととせゆ〜このいあ〜 冬文

さひ〜ささ〜あつたの存のあは雨 舟泉

さゆま〜と蓋まあふつ〜と申 松芳

〜〜と綿〜とあつたの〜と 冬文

暖ゆ〜と提波が品〜とむ 荷今

けーの花と〜とあつたす〜と 松芳

味増すもを〜との際〜と〜と 舟泉

芳今乃〜と〜と新介 荷今

さか〜とあつた〜と〜と 冬文

春結新赤貝と〜とあつた〜と 舟泉

新見え〜と〜とあつた〜と 松芳

〜と〜とあつた〜とあひ〜と 冬文

あ〜と面白〜と山口の家の 荷今

かきくもくす 結姫心のおもあき

荷今

雨のつゆあふくこてる戸の口

野水

引拵 車ハ琵琶のかけぎて

同

あつさう那くも人のうかひ

荷全

月の秋旅乃きこさくあもあ

同

一 何にあいし 舟あ乃きけ

野水

心あ〜〜〜  
水

菜畑畑の肌や〜  
今

土肥を〜  
全

平判木〜  
水

通海の〜  
全

六位あ〜  
今

代よ〜  
全

錢一貫一鎰一糸  
水

月乃新〜  
全

系〜  
今

天仙〜  
今

の節〜  
水

た〜人〜  
全

夕〜  
今

駝の〜  
水

心乃〜  
今

水 見 見能

八日 乃 松と根の 水

山乃 乃 松と根の 水

乃 乃 松と根の 水

乃 乃 松と根の 水

乃 乃 松と根の 水

乃 乃 松と根の 水

乃 乃 松と根の 水

乃 乃 松と根の 水

乃 乃 松と根の 水

乃 乃 松と根の 水

乃 乃 松と根の 水

乃 乃 松と根の 水

乃 乃 松と根の 水

乃 乃 松と根の 水

乃 乃 松と根の 水

乃 乃 松と根の 水

あ

水

月ごりのほろろと八登のうらたもあつた  
わろろとく柄をさしとくくくく  
用と官儀は所たつたをすすしとく  
まのまはたつたをすすしとく

月ごり柄をさしとくくくく

敷のわろろとくくくく 越人

とくくくくくくくくく 傘下

たあひくくくくくくくく 同

とく木柱つえおとくくくく 人

使の者くくくくく 同

秋の夜と猫の子を鑑む... 筆

とこころのあはれなり 下

まごちもけり泣くすゝ人 同

大勢乃人よ法華をこゝろとて 同

月さら夕と物籠傳へ 下

春ふ橋も又うらやま皆深し 同

秋乃きりさけ細みるま 人

つらきんじつはきこ背へ 同

衆当り書々文字結ゆむ 下

花の宿るころははるの 同

鳥のの翔びこそまことの 人

くら廻る浦の宿屋の境へ 同

内へさいりてなまをゆ 下

酔こころのあはれなり 同

多きけりなは雨乃り 人



歌あてを揚名種首まゝく同  
 了り献立のしめりり日ち未下  
 灯其油のほし押し同  
 白をねとせしそちくそ花人  
 如く凡そ急のそちのありと同  
 半ちこそすちち乃秋下  
 ちつくと月も衆の新と似同  
 人の徳こそちちあし人

にちちく瓜や草やを荷ひ下  
 下き法もこの後み所中人  
 ねろく也小法の宿名を時下  
 皆同きよより心佛人  
 百一とちちひちちをさち下  
 日衆をゆくさちち人

深川の景

舟のこもる川にさすまゝのひきや

越人

舟をぬかす船このはらり月

芭蕉

さぬさうは備作の座をめてらん

全

理をたれまは秋乃りたる池

越人

軌算の大きこと五石ころりや

全

れは船のゆくはるる

芭蕉

長安は是れ我の地 全

醫のねほきく月くわ 越人

いそしと作走乃くくく 芭蕉

あきとせ活やく寺お終り 越人

比里と古きそあおあもつて 芭蕉

足張らうをぬ雨乃あけほの 越人

きぬくやあふくつあきくあや 芭蕉

うぼひさたふ色乃くくく 越人

手とつうあそ登の尻膳とすん 芭蕉

おいろくさき舟ぬたりな 越人

母と比良のさねをいよ 芭蕉

やう雀さきつるころれ肌ぬ 越人

破れ戸の軒うらけあまの未 全

又をいよひーこあみひこ 芭蕉

家ぬくて服ぬ衣よはむ十す鏡 人

このねあひあふ神子あかひ 蕉

人 去ていさし 此 聖乃白ひ 夕夕

幼 衆之 繁る 堂より 片 臨

本と とも 風の あらく 元 年と

物 植の こし ち 露らと ち 所 地とく

あ 如はく ち ち ぬ 妹 ち 夕 夕 あり 先

ちの ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

り 月 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

秋の 田 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

馳 走 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

六

六

公羽之伴たる所へて其人の

まじりしを

具角

とあはれし荷字は文也天降

とあはれし月入るるをいふは越人

とあはれし庭にまじりしは全

飲ししをいふはあはれしは角

唯とあはれしはあはれしは衣全

函とあはれしはあはれしは人

何れも同様にふるまはせしむ

人

静清前へ舞をよすしむ

角

空蟬の雛魂ちねのねら

全

あともつとくちり金二万あ

人

いとも一ひきも他人のまはせしむ

全

やけとあをいしむ

角

月讀と身くつしむ

全

負をもつとぬ月のねみ舟

人

そといろいろの富士ら度きく杖の杖

全

むやみしむる草刀の一籠

角

饅頭をいれしとゆくと包とる

全

うきとせとつとて死ぬ人の損

人

西王母東方朝と月よみす

全

よーや鸚鵡の舌乃しむ

角

あらとあをいしむとささむる

全

燕の親もあをいしむ

人

や ねむひふ疾も ねむしめ

全

来つゝ青ち 原 走なかり

角

夕霧宿のそとく 暇乃とほ

全

ついで川のせきをそよみ 強力

人

穴いちよ塵うららひ 草一枕

全

ひいあふそりて 伊勢の八朝

角

満月く不断 梅を流るる如

全

念者法師く 秋のあまの海

人

夕まらぬやうに ちとる子

全

うららひらり 突あきのよと

角

なごころ じ食の積る程

全

そのとく ぬ島士の園さる

人

花のまよあけつと 脛とらや

全

むしらふまへと 嘆續りま

全

嵐雪

赤らしくしめ角人の醒や死

秋や寒くいつと得る縁 越人

月の扇書をしらぬ 全

水面菜の草はけさけり 雪

もよあひく牧こまらぬ 全

一越らぬと横下のしら 人



危瘡島の透をみるが歯の

唱をうたふす色あきらむ

あきらむるを眺むるのうたを

後そひよやうのうたを

と歌をよむ由あきらむるを

の能くもよむかへる浪人

はる物を礎とてと一川脱

ぬ日と好友をよむ月の影

人

雪

同

越

人

嵐

雪

越

あきらむる乃群をよむ女を

つきの影の醫者乃後安や

あきらむる一日をよむを

あきらむるをよむを

人

雪

越

人

初雪やことしのひさる桐の末に

月のみききせしあきの初起

山川や霧の巻のよとさうすけ

紙を遠かきんまかそりて

おあひさま押合月よ草外つ

よきししきら櫃つる秋

落梧

全

野水

同

落梧

野水

川、越乃歩よとく流の福の雨  
ぬふと痛うる秋の あき  
つるせとま あき かつりあ あき かつりあ あき  
すく あき せふ比の あき かつりあ あき  
える あき 水の流らむ あき とく あき  
こそく あき かつりあ あき 相 あき かつりあ あき  
峯の松あ あき かつりあ あき かつりあ あき  
旅 あき かつりあ あき の あき かつりあ あき

水 梧 水 梧 水 梧 水 梧

煮 あき かつりあ あき の あき かつりあ あき  
下 あき かつりあ あき 月 あき の あき かつりあ あき  
耳 あき かつりあ あき かつりあ あき  
り あき かつりあ あき かつりあ あき の あき かつりあ あき  
い あき かつりあ あき かつりあ あき  
山 あき かつりあ あき かつりあ あき  
く あき かつりあ あき かつりあ あき  
他 あき かつりあ あき かつりあ あき

水 梧 水 同 梧 水 梧 水

何よりを泣き心發ち浪おほし

水

きり〜物と〜地は然らば

水

うつ〜も〜馬うまのうま

水

〜着中〜を銘稱あり

水

雨や〜〜をれら〜面白

水

柳ち〜の〜倒の庭道

水

新なる〜月〜さり地五十間

水

寂〜秋は女ま居り

水

と〜と上〜〜〜〜〜水

水

赤〜〜〜〜〜の角全

全

朝もの千隻は〜川地〜格

格

誰〜〜〜〜〜見〜〜格

同

ま〜雨り〜〜〜〜〜水

水

ぬ〜〜〜〜〜と〜〜格

格

一里子灰と實をいづる物也

一井

かきひの芝子瓶氷る物

鼠彈

とさくは也正本をいづる物也

胡及

肩き物をつき酒とくふ人

長缸

夕月子入きさる早き桶とくハ

鼠彈

たつらに鯉をつらきとむ秋

一井

星渾く踊あふ二三月 長虹

ま司の妻とわれら共々 胡及

向ひ顔くも涙も物のま 一井

昔籠とてさう切をく文 氣弾

うもくも寝起あつと湯を 胡及

まゆゆく東羊の越み雪鋤 長虹

なうゆゆよとらあひてからち舞 氣弾

蛤とまきこふ女中 一井

浦風之脛吹あつと月流し 長虹

みるもかしくは紀伊の魂を 胡及

み者乃と矢射てたる為の 一井

蒜くも匂香く遠さうとや 氣弾

はるのう流あつとくも解るん 胡及

あの子乃綿り裾とあつと 長虹

えあつとあつと内とあつと度 氣弾

産あつとあつと蚊屋を釣る 一井

木もこもにあうまじき枝 長虹

秤にうる人 乃真 胡及

はくまなるまじき枝のゆまじき 一井

はくまなるまじき枝のゆまじき 嵐彈

まじき枝の障子の障子なるまじき 胡及

まじき枝の障子の障子なるまじき 長虹

まじき枝の障子の障子なるまじき 嵐彈

衣引なる人のまじき 一井

まじき枝の障子の障子なるまじき 長虹

片風なるまじき枝の障子の障子なるまじき 胡及

板なるまじき枝の障子の障子なるまじき 一井

まじき枝の障子の障子なるまじき 嵐彈

まじき枝の障子の障子なるまじき 長虹

見わたすまじき枝の障子の障子なるまじき 胡及

京寺町通二条上町井筒屋

筒井庄兵衛

三下

